

随 想

自転車通勤道中記
—香流川サイクリング・ロード、矢田川沿緑地道の巻—

永田 量子

Kさんへ

季節を送るときは一抹の淋しさがありますね。夏が行き、風の音にも、秋の訪れを感じます。私の通る道では、萩・コスモスがとてもきれいです。

私が自転車通勤を始めたのは、名古屋大学医学部附属病院分院が同大学医療技術短期大学部の実習施設として指定され東区東新町から大幸に移転したためです（昭和53年7月）。当時同病院勤務の私はバスと地下鉄30分程度で通えましたのに大幸迄は逆さコの字で自宅から一時間半もかかり自転車にかえました。車と殆ど会わなくて通える香流川道は後程見つけたのですが、自転車初試行日は地図を片手に迷いながら分院迄行きました。そして再び家にたどり着くのに確か数時間もかかりました。優しく母の“お茶が入りましたよ”という声を横になって聞いたのを懐かしく思い出します。その後同敷地内にある医療短大に替わりましたが、あれからもう18年がたちました。今では他に幾とうりもの通勤路を見つけ、片道30分程にも短縮でき暴走族と陰口をたたかれる迄になりました。今回は一番良く通る香流、矢田道での沢山の出会いから幾つか書いてみました。

オウムと雀

びっくりしました！

数年前の信じられないような本当のお話です。香流川は隠れ花見場所と云われるほど桜並木が見事ですが並木が終わった付近の電線に、雀が驚くほど沢山並んで止まっていました。なんとその数えたような真ん中に、ひときわ大きなオウムがまるで女王様のように鎮座してはいませんか。思わずペダルをとめて見上げました。信じられないような事実は、全く同じ光景を三日後同じ場所で見ました。

Kさん、こんな偶然性ってあるんですね。その後再び仲良しグループを見かけたことはありませんが。今でも不思議で電線を見るたび思い出します。

一休さん

今度は高校生と私の忘れられない道中落語聞いて下さい。香流サイクリングロードの道幅は三人が横に並んで歩くと一杯です。朝、東に向かって走る彼らと西に向かう私は行き交いますが、みんな話に夢中で三人並んで自転車を走らせ決してよけることをしません。そんな時散歩途中のお年寄りも（私も）片端に体を斜めにして、会釈もしないで過ぎ去る彼らを待つばかりです。よけるのは当然相手側とたかをくくっているのでしょうか。或る朝、一度こらしめようと意地悪な私は5～6m先から三人組に「よけて、よけて」と右手をのばし合図してみました。と以外に素直に、すぐ一列になってくれましたので、とても嬉しく、右手の指を三本出して「サンキュウ！」になんと一人が「おばさん！イッキュウ！」と、人差し指を上げたのです。すかさず私も「一休さん！お年寄りには道あけてね！みんなにも云ってね！」と口早に云うと素直に「うん」と。とても爽やかで自然に頬がゆるみました。云えば分かってくれるんですね。その後、可愛い頓智坊には合いませんが。それにしてもKさん、私って本当に意地悪でお節介ですね。だから嫌われるのかしら。

チャーミ（ング）グリーン

Kさん、香流川両側とも桜並木が続き素晴らしい景観です。時間がありましたら是非散策されてはいかがですか。桜ばかりでなく春は、沈丁花、椿、木瓜（ボケ）、雪柳。夏は百日紅、芙蓉、紫陽花。秋は萩、アベリア、冬は山茶花等がとてもきれいです。いつもきれいなね！と話しかけながら走っています。桜の季節も咲き初めから花吹雪、花の絨毯、葉桜とどの時期をとっても素敵です。目を楽しませてくれるばかりでなく、夏は緑の木陰をつくり冬は葉を落として太陽の光を通す自然の摂理にいつも感謝しています。又並木道の木漏れ日にくぐり抜けるのや、木々を映した水たまりの上を走り抜けるのはなかなか面白いですよ。それに千代田緑地沿いの道からのお月様は見晴らしがよく見事です。私の場合地図の様に東西を行き来していますがお日様を背に出勤、夕焼けは研究室で眺め、帰り道の8km程のうち5～6kmもお月様を眺めながら帰れます。川面の月も、木々にかかる月も趣きがあります。このように恵まれた環境なので早朝や夜でも散歩（犬も）や駆け足の方が行き交っています。そんな中で時々お年を重ねられたご夫婦が手をつないで歩かれていて心暖まります。麻痺があったり病弱で体を案じて手をつないでおられるのか、仲陸奥ましい故か分かりませんがいずれにしてもご老人が「手をつなぐ」っていいですね。ペダルを踏

みなから羨ましくおもいます。

おおいぬのふぐり

Kさん、私は木々も大好きですが、野花や雑草も好きです。春浅い日、遊歩道の堤で小学生数人がいぬふぐりを摘んでいました。小さな空色の花が一面で、自転車を止めてしばらく見とれていました。そして「何の花か知っている？」と聞くと「？」怪訝な面持ちで見上げ無言のため「花の名前はいぬふぐり」と元気に云いました。すると少しすまなそうに「おばさん、おおいぬふぐりだよ」と。私も知ってはいましたが、まいりました。きっと見知らぬ人には用心するという思いが何処かにあり返答をためらったのでしょう。諦めないで「ではこれは？」に今度は笑顔で「知らない、何なの？」と子供の顔で尋ねてくれました。「ほとけのぎ、春の七草よ！ ほら葉がハスの花のようでしょ」に「ほんと、おばさん」と可愛く答えてくれて嬉しく、ついでにいつも持っている折り紙を出して、はばたく鶴を皆で折りました。Kさん、子供達はとても喜びましたが、またまたお節介な私でした。

あらいぐま

Kさん、遊歩道では色々な種類の犬を見かけますが、あらいぐまは初めてでした。たしか3年程前の夏の夕方。中学生位の女の子と父親が川べりの柵で話をしていました。よく見ると女の子が抱いているのはあらいぐま。しっぽのしましまと人間の手をそっくり其のまま縮小したような形の真っ黒な手。はじめタヌキの子供かなと思いました。人なつっこく私が手を出したら人間のように握りかえたのにはたまげました。Kさん、見知らぬ親子と自転車を止めて楽しいお話ができました。それにしても生き物って本当に不思議ですね。

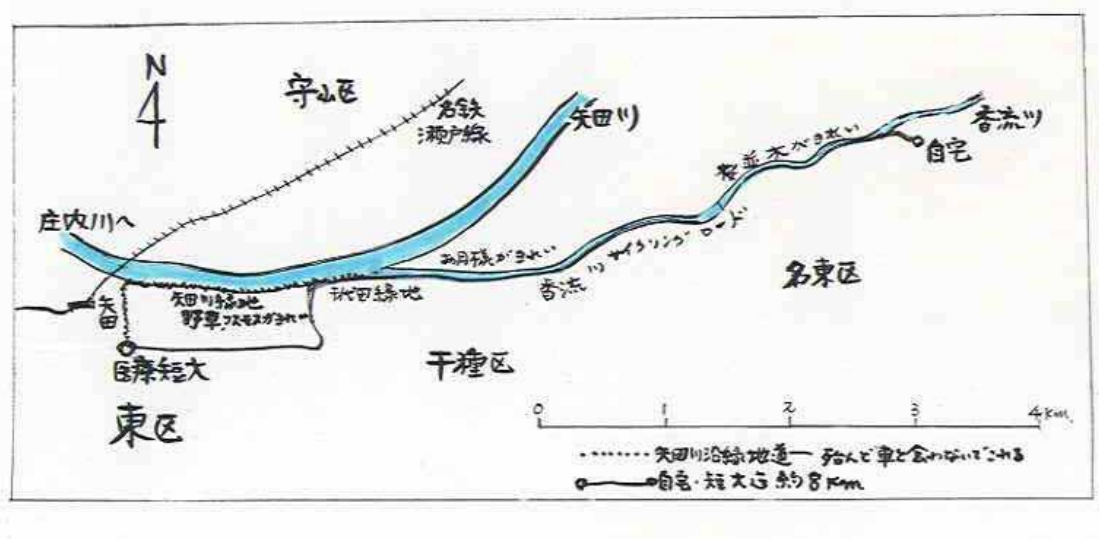
捨て猫と子供

Kさん、今度は猫のお話聞いて下さい。いつもウオークマンを聞いていますのでその時も、とうりすぎてしまいそうになりましたが小さな姉妹が子猫を抱いて何か云っています。自転車を止め聞きますと、捨てられた子猫が可哀相だから貰って下さいと呼びかけていたのです。とてもいじらしく胸が熱くなりました。しかし、何せ家にもワカメ（学生が拾ったが下宿で飼えない）とスウジイ（やはり香流で息絶え絶えでした）がいてこれ以上飼えないことを話しました。その後も誰か貰ってくれたかなと気になっています。私もワカメを引き受けた時は母（亡）の介護で大変でしたが今は家に帰りますと、ゴロゴロとのだ

を鳴らし猫などで声で何処にいても二匹が必ず出迎えてくれます。猫が特に好きと云う訳ではありませんが動物がいるとホットします。Kさん、下手な短歌笑わないで下さいね。「母逝きし 淋しさ慰さん 捨て猫に 学びし情けは 人のためならず」今は猫に助けられています。

Kさん、自転車通勤が体に良い事や、雨の日雪の日のエピソード、転倒した時の事などまだまだお話沢山ありますが 又いつか聞いて下さいね。有難う。

(名古屋大学医療技術短期大学部助教授・看護学科)



私の通勤の道(東区、千種区、名東区にまたがっている)



8月 木洩れ日の道



4月 満開の桜並木